

2月8日(日曜日)

## 「シイタケの菌打ち体験」開催



2月8日の日曜日は、雪の降る寒い朝であった。交通の事情で行けないと3組不参加の連絡があったが、足元の悪い中にもかかわらず13組36名の参加があり、「シイタケの菌打ち体験」を開催することができた。

雪の降る中、外ではできないのでビクターコテージの研修室で行うことになった。

予定より少し早く集まり、研修室の机いすを片付け、ビニールシートを敷き、原木を並べて、9時過ぎには準備を終え、9時半の受付に間に合うことができた。

初めに、モリメイトが「今日のスケジュール」「きのこ」「菌打ちの仕方」などについて話をした。

今日のスケジュール、作業中の注意点などについて話します。最後にアンケートをよろしくをお願いします

国内には4000種類以上ものきのこがあります。食用きのこはわずか100種類ほどで、そのうち、市場に出ているきのこは15種類ほどです。

菌打ちの仕方を説明します。60個の菌駒を2本の原木に打ってください。間隔はものさしを使い、ドリルは垂直に止まるところまで



# シイタケの菌打ち体験の様子です



お父さん、  
お母さんがドリルの使い方を教えてくれています



木づちでトントン  
お姉ちゃんが見守ってくれています



夫婦仲良く  
菌打ちです



この菌がシイタケ  
になるんですね



家族4人の  
楽しい時間です



持ち帰ってもらったシイタケの原木は、地面に横に寝かせ(仮伏せ)て、冬期の低温と感想から種菌を守るため寒冷紗などで覆い、原木にシイタケ菌を活着させます。6月梅雨前にシイタケ菌を原木全体に蔓延させるために立てかけ(本伏せ)ます。9月には天地返しと言って、均一にシイタケ菌をまわすため、ホダ木の上下と表裏を同時に置き換えます。35度前後になる盛夏には、寒冷紗をかけたり水をかけたりして温度を下げます。雨が降らない乾燥気味るときは、適宜水をかけます。このようにしてやっと2年目の秋ごろからシイタケが出始めます。

(活着した種菌が原木に蔓延すると、ほだ木と呼ばれます。)

シイタケの発生を楽しみに、気長に見守り、お世話をよろしく願います。